

令和 3 年 5 月 26 日現在

機関番号：82723

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13480

研究課題名(和文) 言語経済を取り入れた現代英語に観察されるフレーズ変化の解明の実証的研究

研究課題名(英文) Descriptive research on how to form phraseological units in contemporary English from the perspective of linguistic economy

研究代表者

井上 亜依 (Inoue, Ai)

防衛大学校(総合教育学群、人文社会科学群、応用科学群、電気情報学群及びシステム工学群)・総合教育学群  
・准教授

研究者番号：70441889

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、次の4点に取り組んだ。1)これまでの語形成規則を現代英語に観察されるフレーズの成立説明に活用し、フレーズの成立規則を提示した。2)様々なフレーズのストレスパターンを調べる、そのストレスパターン規則を提示した。3)明らかにしたフレーズの規則を検証した。4)言語経済とフレージオロジーの視点から現代英語の変化を解明した。その結果、次の2点を明らかにした。現代英語に観察されるフレーズの内的特徴を明らかにし、フレージオロジーに体系的説明を与えた。そのフレーズの内的特徴を言語の変化と捉え、その変化の根底に働いている原理を言語経済の法則から説明し、現代英語に観察されるフレーズの変化を解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が行ったフレーズの形成規則、形成過程、形成条件、ストレスパターン規則を研究したことは下記の意義が見出された。

平易な単語から構成されているが理解が難しいフレーズの規則を明らかにすることで、英語を理解するのに役立つだけでなく、英語らしさを伴った言語活動が可能となった。そして、本研究で明らかにしたフレーズの形成規則、形成過程、形成条件、ストレスパターン規則は、ほとんど研究がされていなかった。このため本研究は、世界に先駆けて新たな視点でフレージオロジーの体系化を報告することができ、非常に特色のある研究になったと言える。

研究成果の概要(英文)：The study contributed to giving systematic explanations to English phraseology through clarifying how phrases are formed from morphological, semantic and acoustic phonetic's perspectives and to showing the linguistic economy (i.e. least effort or redundancy) underlies to form phrases.

研究分野：英語学

キーワード：フレージオロジー 実証的 コーパス 形態論 意味論 音響音声学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

これまでの言語理論によると、人間は単語と文法規則の習得により無限に文を生成する能力があると考えられてきました。しかしながら、人間が実際に作文・発話したものに注目すると、文法規則では説明できない語と語の塊、あらかじめ固定化された塊、すなわちフレーズ(phrase)が多数使用されていることがわかります。このようなフレーズを多数使用することにより、言語らしさをもった作文、発話が可能となります。そして、連語、イディオム、成句、決まり文句のようなフレーズを研究対象とした学問領域を phraseology (フレイジオロジー)と言います。

フレイジオロジーは、電子言語資料収集体の発展に伴い、過去 20 数年間に注目を浴びた学問ですが、それ以前に研究が全く行われなかったかというところではありません。約 100 年以上前より「英語学習者に有益なのはフレーズである」という考えをもとに作成された辞書の中で、フレーズの記述という形で研究が行われた実践的な「古くて新しい学問」です。実践的な側面が進んだため、何がフレーズで、どのように研究をするのかという理論的側面は発達段階で、研究者によりフレーズの定義、研究対象とするフレーズは異なり、体系的な説明が欠けています。

このような背景のもと、私はフレイジオロジーに取り組み、文法規則では説明できないけれど何の疑問を持たれることなく繰り返し使用されていたフレーズの意味の見直しの研究から始め、現代英語に観察されるフレーズの意味と文脈での役割などの外面的特徴を述べてきました。その研究成果として、2006 年 3 月に日本で初めてのフレイジオロジーの博士論文で学位を取得しました。また、その研究内容を国内・国際学会で発表し、さらには日本で最初のフレイジオロジーの単著書(Inoue 2007) や共著書(八木・井上 2013) 論文等(Inoue 2014, 2015)で明らかにしてきました。このように、フレイジオロジーは個別の現象についての研究が行われています。しかし、フレーズの内面的特徴は明らかになっておらず、フレイジオロジーに体系的説明を与えることはできていません。また、そのような内面変化の根底に働いている原理として言語経済の法則が働いていることがわかりましたが、その存在と作用についても明確になっていません。

以上のことから、フレーズの規則の解明とその変化を支える原理(言語経済の法則)の解明が期待されます。今後、現代英語に観察されるフレーズの全貌を体系的に明らかにし、その応用を様々なフレーズで検証します。そして、フレーズの変化に体系的説明を与え、その変化の根底に言語経済の法則が働いているという 2 つの視点から、現代英語に観察されるフレーズの変化の足がかりをつかみたいと考えていました。

## 2. 研究の目的

本研究の全体の目的は、次の 2 点でした。①現代英語に観察されるフレーズの内面的特徴(成立規則、成立過程、成立条件、ストレスパタン規則)を明らかにし、フレイジオロジーに体系的説明を与える。②そのフレーズの内面的特徴を言語の変化と捉え、その変化の根底に働いている原理を言語経済の法則(効果的な意思疎通のために冗漫と節約という相反する現象があること)から説明し、現代英語に観察されるフレーズの変化を解明する。

本研究の具体的な目的は、下記の通りです。

1) これまでの先行研究で述べられてきた語形成規則をまとめ、それを現代英語に観察されるフレーズの成立説明に活用し、フレーズの成立規則を提示する。そして、フレーズの成立過程、成立条件も併せて提示する。

2) 様々なフレーズのストレスパタンを調べることにより、そのストレスパタン規則を提示する。

3) 1) と 2) で明らかにしたフレーズの規則が、次々と現代英語に観察される他のフレーズに

も適応できるかどうか検証する。

4) 実態が把握できていない言語経済の法則の実態を明らかにし、その視点からフレーズの内面的特徴の全貌を提示し、言語経済とフレイジオロジーの視点から現代英語の変化を解明する。

### 3. 研究の方法

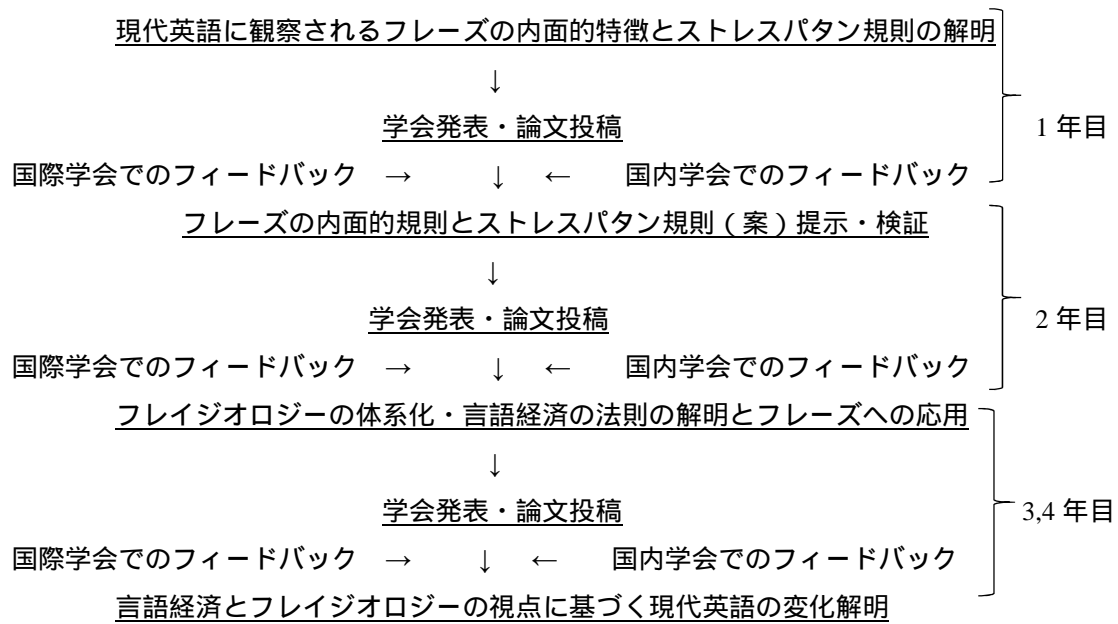
上記の背景およびこれまでの研究成果をもとに、本研究は語形成規則を応用してフレーズの形成規則、フレーズへ至る形成過程、フレーズになるための条件、ストレスパタン規則を明らかにしフレイジオロジーに体系的説明を与えました。そして、規則・過程・条件の新しい変化の根底に働く言語経済の法則の実態を明らかにし、フレイジオロジーと言語経済の観点から現代英語の変化を捉えました。研究期間内には、具体的に以下の研究手法を採用しました。

- (I) これまで活発に議論されてきた語形成規則をまとめ、統一した規則を提示する。
- (II) 申請者がこれまで研究してきた個別のフレーズ(平易な単語2語以上から成り立ち、繰り返し使用されるものと定義)の形成規則を、(I)で提示した語形成規則(派生、省略、混交など)を応用し、明らかにする。
- (III) (II)で扱ったフレーズとそれ以外のフレーズのストレスパタンを調べ、フレーズのストレスパタン規則を提示する。
- (IV) (II)提示した形成規則を踏まえて、フレーズになるための形成過程と形成条件を提示する。
- (V) (II), (III), (IV)で得られた結果が、様々なタイプのフレーズに適応できるかどうか検証し、フレイジオロジーに体系的説明を与える。
- (VI) フレーズの形成規則・形成過程・形成条件の根底に働く言語経済について調べ、その実態と言語変化への応用を提示する。

### 4. 研究成果

本研究は、4年間で次のことを明らかにしました。(1)現代英語に観察されるフレーズの内面的特徴とストレスパタン規則の解明、(2)現代英語に観察されるフレーズの内面的規則とストレスパタン規則の検証、(3)言語経済の法則の視点から現代英語に観察されるフレーズの変化の解明、です。

この3点の研究成果を、私が所属している学会と研究会(ヨーロッパフレイジオロジー学会、アジア辞書学会、北米辞書学会、国際英語学学会、フレイジオロジー研究会など)には、フレイジオロジーを専門とする研究者と言語経済の法則に取り組んでいる研究者が在籍しているので、その学会で研究発表を行い、また学会誌への論文投稿を行うことで、世界中のフレイジオロジーと言語経済の法則を研究している研究者からアドバイスを受け、議論を深め、研究の発展に努めました。4年間の研究成果を図式化すると、次のようになります。



## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Ai Inoue  | 4. 巻<br>48          |
| 2. 論文標題<br>'Newly established idioms through the blending of semantically similar idioms - take care for, take care about, and care of.'  | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>Lexicon   | 6. 最初と最後の頁<br>1-24  |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-           |
| 1. 著者名<br>Ai Inoue  | 4. 巻<br>6           |
| 2. 論文標題<br>'Functional conversions of phraseological units working as prepositions: The case of group prepositions expressing concession' | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>International Journal of English Language and Linguistic Research   | 6. 最初と最後の頁<br>32-56 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>該当する        |
| 1. 著者名<br>Ai Inoue  | 4. 巻<br>9           |
| 2. 論文標題<br>English phraseological research on until by/ before working as complex prepositions  | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>International Journal of English Linguistics  | 6. 最初と最後の頁<br>1-14  |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.5539/ijel.v9n1p1  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>該当する        |
| 1. 著者名<br>Ai Inoue  | 4. 巻<br>5           |
| 2. 論文標題<br>New description of an interrogative as a noun: The case of a/the why(s)  | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>International Journal on Studies in English Language and Literature   | 6. 最初と最後の頁<br>43-56 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-           |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>Ai Inoue  | 4. 巻<br>5          |
| 2. 論文標題<br>Newly observed phraseological unit beyond the explanations of existing linguistic frameworks | 5. 発行年<br>2017年    |
| 3. 雑誌名<br>International Journal of English Language and Linguistics Research                            | 6. 最初と最後の頁<br>1-19 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-          |

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Ai Inoue  |
| 2. 発表標題<br>The phraseological uniqueness in The Compass Rose English-Japanese Dictionary |
| 3. 学会等名<br>The Asian Association for Lexicography 2019 (国際学会)                            |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Ai Inoue   |
| 2. 発表標題<br>Corpus-based empirical research on resurgent collocation beyond existing grammatical rules: make angry/mad as an example |
| 3. 学会等名<br>European Society for Phraseology 2019 (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>井上亜依   |
| 2. 発表標題<br>心理的距離と抽象度による代名詞の使い分け - 人を表す they who, these who, those who |
| 3. 学会等名<br>関西英語語法文法研究会第39回例会  |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Ai Inoue  |
| 2. 発表標題<br>Newly established idioms through the blending of semantically similar idioms - take care for, take care about and care of |
| 3. 学会等名<br>The Asian Association for Lexicography 2018 (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>井上亜依   |
| 2. 発表標題<br>形態的变化を起こさない英語定型表現の機能変化 - 群前置詞in spite ofを中心に |
| 3. 学会等名<br>関西英語語法文法研究会第36回例会                            |
| 4. 発表年<br>2018年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Ai Inoue  |
| 2. 発表標題<br>Contemporary English corpora-based phraseological research on until by and until before working as complex prepositions |
| 3. 学会等名<br>European Society of Phraseology 2018  |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>井上亜依  |
| 2. 発表標題<br>English Phraseology (英語定型表現研究) の観点から見た「英辞郎on the WEB」の有用性と発展性 |
| 3. 学会等名<br>大学英語教育学会辞書研究会   |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>井上亜依  |
| 2. 発表標題<br>新しいイディオム take care for, take care about, care ofを例として |
| 3. 学会等名<br>関西英語語法文法研究会第35回例会                                     |
| 4. 発表年<br>2017年  |

〔図書〕 計5件

|                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>井上亜依         | 4. 発行年<br>2019年 |
| 2. 出版社<br>開拓社          | 5. 総ページ数<br>185 |
| 3. 書名<br>英語のフレーズ研究への誘い |                 |

|                                  |                 |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>井上亜依                   | 4. 発行年<br>2019年 |
| 2. 出版社<br>小学館                    | 5. 総ページ数<br>191 |
| 3. 書名<br>フレーズ活用英語塾：世界で活躍できる人材になる |                 |

|                      |                  |
|----------------------|------------------|
| 1. 著者名<br>赤須薫（編）     | 4. 発行年<br>2018年  |
| 2. 出版社<br>研究社        | 5. 総ページ数<br>2259 |
| 3. 書名<br>コンパスローズ英和辞典 |                  |



|                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>森口稔 (編)            | 4. 発行年<br>2018年 |
| 2. 出版社<br>三省堂                | 5. 総ページ数<br>691 |
| 3. 書名<br>英語で案内する日本の伝統・大衆文化辞典 |                 |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>井上亜依                                | 4. 発行年<br>2018年 |
| 2. 出版社<br>研究社                                 | 5. 総ページ数<br>275 |
| 3. 書名<br>英語定型表現研究の体系化を目指して－形態論・意味論・音響音声学の視点から |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|